

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	内科学Ⅲ			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門基礎分野	対象年次	4	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	山際 清隆						

授業の概要	近年、高齢者の増加に伴う慢性疾患の増加と疾病構造の変化という現状から、いわゆる内部障害への医学的リハビリテーションのニーズが急速に増加している。 本科目では、内科学Ⅱで学んだ内容を、実際の症例を通してより理解を深めることである。			
学習到達目標	各内科疾患に対して、症例に応じて理学療法を行う際のリスク管理を考慮することができる。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【症例検討】 循環器疾患、呼吸器疾患	7	
	2	【症例検討】 消化管疾患、肝胆膵疾患	8	
	3	【症例検討】 血液・造血器疾患、代謝性疾患	9	
	4	【症例検討】 内分泌疾患、腎・泌尿器疾患	10	
	5	【症例検討】 膠原病・アレルギー疾患、感染症	11	
	6	【総まとめ】	12	
授業方法	学生間でのグループワークを中心に実施する。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)で成績評価を行う。			
履修上の留意点	各疾患について理解しておくことが望ましい。			
教科書等	奈良勲・鎌倉矩子『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学第3版』医学書院			
参考図書等	特になし			
関連科目	解剖学Ⅰ(1年)、解剖学Ⅱ(1年)、解剖学Ⅲ(1年)、病理学概論(1年)、内科学Ⅱa(3年) 内科学Ⅱb(3年)、神経内科学Ⅱ(3年)			
最近の国試出題傾向	各分野について頻出			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	理学療法研究法			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	前期	授業形態	講義
担当講師	高柳 清美						

授業の概要	1. 本科目の目的は、理学療法の実践に限らず、研究や教育の分野でも活躍し得る研究の方法論を学び、習得することである。			
学習到達目標	1. 研究法の重要性を理解する。 2. 初歩的な統計手法を理解する。 3. 文献の精読方法を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【総論】 ・研究とは		
	2	【理学療法研究の展開】 ・テーマの発見など		
	3	【基本統計】 ・記述統計の進め方など		
	4	【文献の検索】 ・文献収集の方法など		
	5	【研究発表の仕方】 ・口述発表など		
	6	【国家試験対策】		
授業方法	講義形式。			
成績評価の方法	課題レポート(100%)に出席率、授業態度を加味して評価する。			
履修上の留意点	理学療法のトピックスについて理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	奈良勲 『理学療法研究法 第2版』 医学書院			
関連科目	統計学(1年)			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に1問出題			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	理学療法教育管理学			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	前期	授業形態	講義
担当講師	川島 敏生 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目の目的は、現在の医療制度が理学療法現場にもたらす影響などを鑑み、病院の運営やリハビリテーション科の運営の基礎知識を習得することである。			
学習到達目標	1. 現在の医療制度を理解する。 2. 病院経営の方法を簡単に理解する。 3. リハビリテーション科運営の方法を簡単に理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【総論】 ・国民皆保険制度など	7	
	2	【介護保険制度】 ・介護保険の概要など	8	
	3	【医療における安全管理】 ・リスクマネジメントなど	9	
	4	【医療機関の運営と管理】 ・運営の実際など	10	
	5	【リハ科の運営と管理】 ・運営の実際など	11	
	6	【国家試験対策】	12	
授業方法	講義形式。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	理学療法の全体像について理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	資料配布			
関連科目	理学療法概論(1年)			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に数問出題			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	疾患別理学療法Ⅵ			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	原 隆之 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目では、理学療法の対象となる疾患について包括的に概観する。			
学習到達目標	1. 各病態の特徴を理解する。 2. 各病態に対する理学療法を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1	【整形外科疾患】 ・靱帯損傷など	7	
	2	【中枢性疾患】 ・パーキンソン病など	8	
	3	【呼吸器系疾患】 ・COPDなど	9	
	4	【循環器系疾患】 ・心不全など	10	
	5	【難病】 ・筋萎縮性側索硬化症など	11	
	6	【内科系疾患】 ・糖尿病など	12	
授業方法	講義形式。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	各疾患の特徴を理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	検査測定学(1年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に10問出題(上記疾患の病態・上記疾患の理学療法など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	総括			単位数	3	時間数	48
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	山際 清貴 川島 敏生			○理学療法士の実務経験に基づく講義			

授業の概要	1. 本科目では、各疾患の知識と理学療法の実践を統合する能力を習得する。			
学習到達目標	1. 各疾患に関する知識を理解する。 2. 各疾患の病態を理解する。 3. 各疾患に対する理学療法を理解する。			
授業内容	回	内容	回	内容
	1～2	【難病】 ・パーキンソン病など	13～14	【スポーツ障害】 ・靱帯損傷など
	3～4	【呼吸器疾患】 ・COPDなど	15～16	【その他】
	5～6	【循環器疾患】 ・心不全など		
	7～8	【内部障害】 ・糖尿病など		
	9～10	【小児疾患】 ・脳性麻痺など		
	11～12	【老年症候群】 ・転倒など		
授業方法	講義と実習を併せて実施する。			
成績評価の方法	課題(100%)に出席率、授業態度などを加味して評価する。			
履修上の留意点	各疾患の特徴を理解しておくことが望ましい。			
教科書等	資料配布			
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック			
関連科目	検査測定学(1年) その他、多くの科目と関連します。			
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に10問出題(脳性麻痺のポジショニング・靱帯損傷の運動療法・腎不全の理学療法など)			

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	臨床実習Ⅲ			単位数	9	時間数	405
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	前期	授業形態	実習
担当講師	理学療法学科専任教員／実習施設指導者 ○理学療法士の実務経験に基づく指導						

授業の概要	1. 本科目の目的は、実際に病院に赴き、理学療法士の役割を習得することである。 特に臨床実習Ⅲでは、評価から治療プログラム設定までを主目標とする。				
学習到達目標	1. 理学療法士としての基本的な態度を習得し、専門職としての資質向上を図る。 2. 症例に対して一連の評価の流れを学び、指導・監督のもとで遂行できる。 3. 対象者に関する問題点抽出を、評価結果に基づいて実施することができる。 4. 対象者に応じた目標(短期ゴール・長期ゴール)設定ができる。 5. 対象者の現状に即した理学療法治療計画を作成できる。				
授業内容	回	内容	回	内容	
	実習開始前	学内実習オリエンテーション 実習指導者会議 客観的臨床能力試験(OSCE)			
	外部実習施設	実習指導者の指導・監督のもと、対象者の検査・測定、評価、目標設定、治療計画立案、理学療法の実施までの一連の過程を経験する。 上記の項目を見学・模倣・実践と段階的に進行する。 日々の行動・考えを観察記録シート・症例記録シートに記録し、指導者との検討および内省を行うことで学習を進める。			
	実習終了後	客観的臨床能力試験(OSCE) 実習終了後オリエンテーション			
授業方法	実習地に赴き指導を受ける。				
成績評価の方法	実習施設での実習到達度の評価(20%)、学内発表などを総合して点数化(80%)し評価を行う。				
履修上の留意点	理学療法の全体像について理解しておくことが望ましい。 学内授業の総復習をしておくことが望ましい。				
教科書等	指定のものはなし				
参考図書等	指定のものはなし				
関連科目	理学療法評価法、運動療法学等、幅広い科目に関連する。				
最近の国試出題傾向	近年、患者様との面接手法について出題される。				

理学療法学科 I 部 シラバス

科目名	臨床実習Ⅳ			単位数	9	時間数	405
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	後期	授業形態	実習
担当講師	理学療法学科専任教員／実習施設指導者 ○理学療法士の実務経験に基づく指導						

授業の概要	1. 本科目の目的は、実際に病院に赴き、理学療法士の役割を習得することである。 特に臨床実習Ⅲでは、治療の実施から再評価までを主目標とする。			
学習到達目標	1. 理学療法士としての基本的な態度を習得し、専門職としての資質向上を図る。 2. 症例に対して一連の評価の流れを学び、指導・監督のもとで遂行できる。 3. 対象者に関する問題点抽出を、評価結果に基づいて実施することができる。 4. 対象者に応じた目標(短期ゴール・長期ゴール)設定ができる。 5. 対象者の現状に即した理学療法治療計画を作成できる。 6. 立案した理学療法治療計画が実践できる。 7. 治療経過を適宜観察・記録し、明瞭簡潔に報告する能力を向上させる。 8. 対象者の変化に応じて再評価を行い、治療計画を再構築する能力を養う。			
授業内容	回	内容	回	内容
	実習開始前	学内実習オリエンテーション 実習指導者会議 客観的臨床能力試験(OSCE)		
	外部実習施設	実習指導者の指導・監督のもと、対象者の検査・測定、評価、目標設定、治療計画立案、理学療法の実施までの一連の過程を経験する。 上記の項目を見学・模倣・実践と段階的に進行する。 日々の行動・考えを観察記録シート・症例記録シートに記録し、指導者との検討および内省を行うことで学習を進める。		
	実習終了後	客観的臨床能力試験(OSCE) 実習終了後オリエンテーション		
授業方法	実習地に赴き指導を受ける。			
成績評価の方法	実習施設での実習到達度の評価(20%)、学内発表などを総合して点数化(80%)し評価を行う。			
履修上の留意点	理学療法の全体像について理解しておくことが望ましい。 学内授業、臨床実習Ⅲの総復習をしておくことが望ましい。			
教科書等	指定のものはなし			
参考図書等	指定のものはなし			
関連科目	理学療法評価法、運動療法学等、幅広い科目に関連する。			
最近の国試出題傾向	近年、患者様との面接手法について出題される。			